

to you



山岸 博さん(やまざし・ひろし) ホルン奏者

1973年東京藝術大学音楽学部卒業。同時に東京フィルハーモニー交響楽団に入団。74年に渡独、ベルリン国立音楽大学入学。ゲルト・ザイフェルト氏に師事。75年ベルリンシンフォニーに入団。また、ベルリンフィルハーモニーにも客演する。76年ケルン市立ギェルツニッヒ交響楽団の第一ソロホルンとして入団。その間、初めての日本人管楽器奏者としてパイロイト音楽祭に参加。84年読売日本交響楽団ソロホルン奏者として帰国。これまでに洗足学園音楽大学客員教授等を歴任。オーケストラジャパン首席奏者。

コンサート 広島交響楽団第392回定期演奏会

山岸さんが首席客演奏者として出演のコンサートです。

指揮：秋山和慶

ヴァイオリン：アラベラ・美歩・シュタインバッハー

曲目／フォーレ：管弦楽曲「ペレアスとメリザンド」Op.80

サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ Op.28

ラヴェル：ツィガーヌ

フローラン・シュミット：バレエ音楽「サロメの悲劇」Op.50

時／7月12日(金)18:45～

所／広島文化学園HBGホール

¥／S席5,200円、A席4,700円、B席4,200円(学生1,500円)

問／広響事務局 TEL.082-532-3080

読者プレゼント
(P.15に詳細)

5月2019

No.422 平成31年4月25日発行



発行／(公財)広島市文化財団 文化事業部 事業課
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMSアステールプラザ内
TEL082-244-0750 FAX082-245-0246
Eメール bunka@cf.city.hiroshima.jp
ホームページ <http://www.cf.city.hiroshima.jp/bunka/>
編集・印刷／大村印刷株式会社
表紙イラスト／田中 聡

ひとこえ

オーケストラで重要な 役割を担うホルン。 常に真剣勝負です。

今年4月より、日本ホルン界の重鎮・山岸博氏が広島交響楽団首席客演ホルン奏者に就任。ファン待望の協演を前に、広響との縁やホルンの魅力などを伺いました。

■広響演奏会への思い

広響とは20年程前にモーツァルトのコンチェルトで一緒しましたが、その後何度かオファーをいただいたものの中々都合が合わず、この度ようやく実現しました。4月の定期演奏会を皮切りに12回の出演を予定しています。音楽総監督の下野竜也さんとは読売日本交響楽団時代からのお付き合いで、卓越した才能もよく知っています。また、「一緒に演奏できたらいいですね」と交わした約束が叶い、とても嬉しく楽しみです。

■ホルンの特徴、魅力とは

ホルンの持つ柔らかな響きと音域が広く変幻自在な音色は、他の金管楽器や木管楽器・弦楽器ともよく溶け合い、オーケストラには欠かせない楽器です。半面、オーボエと並び難しい楽器としてギネスに登録されているほど音のコントロールが難しく、ホルンを聴けばそのオーケストラのレベルがわかるとも言われます。プレッシャーの余り、プロの奏者でも突然音が出せなくなることも。ですから常に真剣勝負。演奏中は雑念を捨ててひたすら音楽に沈潜するよう心がけています。

■若い演奏家の皆さんへ

私もそうですが、ホルンなどの管楽器は中学・高校時代の部活から始める人が大半です。良い音を出すためには基礎がとても重要で、息の使い方などをきちんと教わる。そして何より音楽を好きになることが一番ですね。「好き」というピュアな情熱がコツコツと練習を積み重ねる原動力に、そして上達・成長のエネルギーになるのです。中学・高校時代に仲間と共に目標に向かってひたすら練習に明け暮れた日々は、半世紀が経った今も良い思い出で、ホルニストとしての土台を作ってくれたと思っています。